

バリアフリー化に関する本校の現状

職員・来客者玄関(外)



資料 2-1

児童用昇降口(外)



資料 2-3

職員・来客者玄関(中)



資料 2-2

児童用昇降口(中)



資料 2-4



教室出入口
吊し扉で、床面には
レール(段差)なし

資料 3-1



併設の幼稚園昇降口

資料 3-3



トイレの出入口

資料 3-2



屋内運動場入り口へのスロープ

資料 3-4



エレベーター
 3年前まで在籍していた、車いす
 使用の児童が、上の階の教室へ
 行くときに利用。
 その他、足を骨折した児童など、
 期間限定で利用することもある。

資料4-1



各教室等の出入り口
 間口が広がっている。
 120cm(前任校は90cm)

資料4-3



階段に設置された手すり

資料4-2



多機能トイレ(校舎1階)
 前述の車いす利用の児童も使用
 していた。

資料4-4

バリアフリー化の課題と工夫点

2階教室掃き出し部分からの雨水の浸入

排水口のカバーが落ち葉等で目詰まりし、ベランダに水があふれ、段差のない教室内に入ることがあった。床材が傷まないよう、現在は、カバーを外して対応中。



資料5-1



資料5-2

1階教室テラスからグラウンドへ出る部分(左)

児童昇降口からグラウンドへ出る部分(右)

ともに、わずかだが段差があり、段差を解消する構造にはなっていないため、スロープを設置している。左の写真のスロープは市販の物。右の写真のスロープは、手作りの木製の板に滑り止めのラバーをつけている。



資料5-3

体育館入り口付近では、段差を解消するために木製の手作りスロープを設置している。(右はマットをかぶせた状態)

体育館は平成17年度の改修・新築の対象ではなかったため、旧のままである。したがって、校舎との接続部分(出入り口)には段差が残っている。

心のバリアフリーの実践

1 総合的な学習の時間等における体験活動

- ・アンプティサッカー
- ・車いす体験

2 地域の障害者支援施設との交流活動 体育館に招いての交流スポーツ大会

3 道徳授業の研究実践

「人生を変えるのは自分—秦 由加子選手の挑戦—
(教科書教材) など



アンプティ・サッカー体験

資料6-1

学区の障害者施設の方々との交流



資料6-2

災害時の避難所としての学校施設の活用とバリアフリー化

1 今年の台風時

台風15号では、学区内ほとんどが1週間の停電

※学校が5日間の臨時休業

※避難所としても開設できず

台風19号では、避難所としての活用

※屋内運動場には空調施設がないので、校舎内の会議室・多目的室を開放。

※地域住民50人程度の避難あり。(1泊)

2 屋内運動場の設備

○前任校は、体育館内に多機能トイレが設置されていたが、本校の多機能トイレは、校舎内に1か所設置されている。

2か所設置の必要性は？

○便器は新しくされてはいるが、トイレの出入り口が狭く、手すり等の設置はない。

資料6-3



優先すべきバリアフリー化

1 避難所としての機能

校舎との行き来 通路

体育館に多機能トイレ

2 学校として

トイレの洋式化率の100%

誰にとっても使い勝手のよいトイレへ